

希望の基

聖書：イザヤ書 55：8-11・マルコ 1：1-11

マルコによる福音書の1章1節はこのような書き出しで始まっています。「神の子イエス・キリストの福音の初め」。「福音」というのは、「よき知らせ」ということです。神の子、主イエスキリストによる私たち一人一人の救いである、「よき知らせ」がここから始まってゆく。と聖書は書き出します。

ここからとは、どこからか。それは、主イエスの洗礼の出来事から。

イエス・キリストの洗礼の場面。主イエスがヨルダン川で洗礼を受けたのは、30歳の時といわれています。この出来事は成人した主イエスの活動の出発点。

福音書は、主イエスとほぼ同時代に活躍したユダヤの宗教家である「洗礼者ヨハネ」を主イエスの先駆者とみなしています。そして主イエスはこのヨハネから洗礼を受けたとマタイ・マルコ・ルカの福音書は記しています。

当時、ユダヤ教の洗礼のとらえ方は「罪を洗い流す」意味合いで行われていた。神道でいう「みそぎ」に近いイメージであったかと思われ、人生の中で複数回行われていたともいいます。

その意味では、現在の私たちキリスト教の洗礼とは違います。キリスト教の洗礼は生涯に一度だけですし、水の中に沈み、主によって立ち上がる。古い罪に生きた自分が死んで、新しい神の命に生きること。罪ある自分は一度死に、水の中から神によって引き上げられること。を意味します。

ユダヤ教の洗礼であれキリスト教の洗礼であれ、そこには「罪」、が関わってきます。

では、主イエスはなぜ洗礼をお受けになったのか。「罪なき神の独り子の主イエスはなぜ、この回心のしるしである洗礼をお受けになったのか。

マタイ福音書では現に、洗礼者ヨハネは主イエスへの洗礼執行を一度断っている。罪なき神の子の主イエスは受けなくてもよかったです。

しかし主イエスは、「何が何でも」洗礼をお受けになった。…なぜか？

それは、つながるため。

何とつながるのか？それは、「罪」です。

もっと言うと、主イエスの洗礼は「関わりを持つため」に。人と、私たち一人ひとりと。

本来罪無き主イエスの洗礼は、罪ある人間、私たちとの連帯のための行為。

どうにもならない自らの罪に苦しむ我々と、ともに痛み苦しむ連帯性。

私たちとともに、私たちに先んじて苦しみの水の中に沈み、私たちとともに、私たちに先んじて神の生命へと立ち上がる、この洗礼の出来事が、主イエスの生き方全体を表す。

人のために天より下り、人とともに、人のために歩み、人の罪のために死に、天から下っただけでなく、人のために黄泉にまで下ってくださり、罪に勝利し引き上げられ復活される、その歩み。です。

主イエスが、本来必要のない、「罪に生きたこの身を滅ぼす洗礼」をお受けくださることは、罪ある我々とともに歩んでくださる表れ。主イエスは世界の、私たちの「救済の業」の最初を洗礼から始められ、マルコ福音書はこの主イエスの洗礼の出来事を「福音のはじめ」として記しました。

主イエスが洗礼をお受けになられ水からあがられとき、「天が裂け、霊が鳩のように下ってきた」と聖書はいいます。

この「裂けた」というギリシャ語は、同じマルコの15章38節で主イエスが十字架上で息絶えられた時、エルサレム神殿の垂れ幕が裂けた。の「裂けた」と同じ語が使われています。どちらも、長く閉じられていたものが開かれる、神がおられる側との関係が開かれるということ。

洗礼における「天が裂けた」出来事は、イエス・キリストを通して神がこの世界に介入な

さった出来事。主イエスが息絶えられたとき、神殿の垂れ幕が裂けたのは、主イエスの血によって私たちの罪が許され、その名によってみ国へとつなげられた出来事。主イエスは、その洗礼を通して私たち一人一人の罪に触れ、自らの十字架を通して私たちの罪を贖ってくださった。

マルコによる福音書は本日の洗礼ではじまり、最後の 16 章 16 節は「信じて洗礼を受けるものは救われる」という約束で終わっています。キリストの洗礼の出来事から始まり、我々への洗礼による救いの約束によって終わる。私たちは改めて、「洗礼」という出来事の豊かさを感じるのです。

洗礼とはそういう約束です。私たちの人生のどのような荒れ野や荒波の中にもはっきりと道を与える、と。それは、我々に必ず訪れる死にすら勝利する復活へと進む道です。私たちは、そこを生きるのだと心に刻みたいと思います。

この仙川教会が無牧の試練を歩んでいるこの時、主イエスの洗礼の出来事から、また私たち一人一人の主とつながる洗礼の出来事から、朽ちることのない希望を与えられたいと願います。